

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703576		
法人名	有限会社 サンコー		
事業所名	グリーンリーフ 星ヶ丘		
所在地	〒807-1264 福岡県北九州市八幡西区星ヶ丘6丁目1-37 093-618-7726		
自己評価作成日	平成24年09月15日	評価結果確定日	平成24年11月01日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・毎月、四季折々の行事やレクリエーションを計画実施し、入居者、ご家族に楽しんで頂いたり、毎月の「星ヶ丘便り」でグループホームの近況をお知らせしている。</p> <p>・提携医療機関との連携による24時間対応、定期的訪問診療、病院OTやPTによるホーム内でのリハビリ実施等、入居者の高齢化に伴い日々の健康管理、体調管理に努めている。また、栄養士作成の献立を基に入居者の体調、嚥下状態に応じ飲食物の形態に配慮している。</p> <p>・居室にはトイレ、洗面台を完備し、個人のプライバシーに配慮している。</p> <p>・職員が研修に参加したり、希望の休みが取れるよう、勤務シフトを柔軟に作っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>交通や、買い物等、利便性の良い郊外の住宅団地の中に、平屋建て木造住宅で、2ユニットのグループホーム「グリーンリーフ 星ヶ丘」がある。「地域の一員として、利用者の自主、自立を支援していく」という理念を掲げ、職員は、利用者一人ひとりに合わせた介護サービスの提供を実践している。開設7年目を迎え、町内会に加入し、地域の行事や、ホームの行事に相互参加し、活発な交流が始まっている。利用者の健康管理は、協力医療機関による往診(毎週)と看護師や、介護職員とのチームワークの取れた連携、理学・作業療法士によるリハビリ、栄養バランスの取れた食事等で、利用者の身体機能維持に結び付いている。今後は、利用者の重度化に合わせた、介護サービスの在り方を検討し、利用者や家族が、いつまでも安心して、暮らせるグループホームを目指す「グリーンリーフ 星ヶ丘」である。</p>

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成 24年10月19日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の自主、自立を尊重して、日々、理念の実践に努めている。現在、入居者の実体に合った理念を皆で話し合っている途中である。	地域の中で、自主・自立を尊重した暮らし、利用者の第二の「我が家」として楽しい生活を送れるよう、真心を込めた介護の実践を理念に掲げ、職員間で理解、共有し、実践に繋げている。また、開設7年目を迎え、職員全員で理念の見直しに取り組み、改めて各自が介護について振り返る作業を行なっている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	町内の星ヶ丘祭、市民センターの七夕祭、文化祭、子供会のクリスマス会等に参加し、子供達のダンスや地域の方の踊りや作品を見られ楽しんでいます。ご近所の入居者が居ますので催しや買物に行かれると挨拶を交わします。	市民センターの七夕祭り、町内の星ヶ丘祭り等、地域行事に利用者職員が参加し、顔見知りになった住民と散歩時に挨拶を交わす等、交流が始まっている。また、ホームの多目的ホールで行われる、ボランティアによるフラダンス、三味線、クラリネットの演奏には、地域の方や家族も参加し、地域交流の輪が広がっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市民センターの各サークルの方々へ、日頃の成果の発表の場として、施設の多目的ホールを開放し、入居者とのふれあいを行っています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議メンバーから出された意見やアイデアを参考に運営に生かし、サービス向上に努めている。	会議は、家族、自治会長、司法書士、地域包括支援センター職員、近隣の他事業所職員の参加で2ヶ月毎に開催し、ホームの状況や取り組み、問題点等報告し、各委員から質問や要望、情報等出され、充実した会議になっている。出された意見や情報については、関係者で検討し、ホーム運営に反映させる努力をしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員が、運営推進会議に参加したり、行政との意見交流会に参加して協力関係の構築に努めている。	グループホーム協議会や行政との意見交換会等、行政職員と関わる機会も多く、情報交換したり、アドバイスをもらっている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し、ホームの実情や取り組みについて理解を得て、連携が始まっている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは鍵を掛けない事や身体拘束をしないケアを理解しています。外部研修への参加、勉強会のテーマに取り上げ、常に意識付けを行っている。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、外部研修への参加、定期的に内部勉強会を行い、身体拘束が利用者にも与える影響について、全職員が理解し、身体拘束をしないためのケアの実践に向けた取り組みがある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修に参加したり、勉強会を行い、スタッフは理解し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の必須研修とし、外部研修への参加や勉強会の実施により、その理解を深め職員のスキルアップに努めている。	現在制度を活用している利用者が2名いて、管理者や職員は実際に対応しながら制度について学ぶ機会がある。また、職員が交代で、外部研修に参加し、内部で報告会を行い、利用者や家族が制度を必要とする時、いつでも支援できる体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、退居に至るまでは、時間をとって複数回説明し、ゆっくり考え判断して頂く様に促している。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や施設来訪時に意見・要望を聴き、スタッフ全員で共有し運営に反映させるよう努めている。年度初めに家族総会を開き、家族との相互理解に努めている。	家族の面会時や家族総会、親睦会、運営推進会議等、家族が要望や意見を表せる場を意識して設け、些細なことでも言えるような雰囲気作りに努め、信頼関係を築いている。利用者や家族の要望は、検討し、出来るだけホーム運営に反映させている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議やミーティング等は、スタッフ主導で進め、スタッフからの提案・要望・意見等を運営に反映させている。入居決定に際しては、スタッフと話し合って決定している。	職員会議を毎月開催し、職員が交代で司会を務め、職員主体の会議として、活発な意見や提案、検討がなされている。出席出来ない職員に対しては、事前に「意見・提案ノート」に記入してもらう等、意見や要望を引き出す環境を整えている。出された意見が、利用者の介護やホームの運営に反映されるよう職員全員が一丸となって頑張っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修の受講費負担や資格取得に向けた支援を行っている。職員の健康診断を行っている。スタッフの休み希望を聞きシフトを作っている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用は、年齢・性別には制限は設けていない。10代から60代全ての年齢層の職員が働いている。職員の要望を聴き、ロッカーを増やした。	調理や園芸、掲示物の創作、歌、踊り、清掃等、特技を持った職員がその力を存分に發揮出来る環境を整えている。希望休は出来るだけ対応し、休憩室、休憩時間の確保、資格取得に向けた支援等、職員が向上心を持って生き生きと働けるよう配慮している。また、職員の採用にあたっては、年齢、性別の制限はなく、人柄を重視している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権尊重のため、人権学習会に参加したり事業所内で勉強会を実施し、人権教育、啓発に取り組んでいる。常に言葉遣いには注意するようスタッフ会議等で意識付けを行っている。	職員は、外部の人権研修会に参加し、内部で勉強会を行い、利用者の人権を尊重する介護サービスについて検討し、職員一人ひとりが理解した上で、利用者の目線にたった介護サービスの提供を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合った研修に参加させたり、受講したい研修に参加出来るよう勤務シフトを組んでいる。施設内の勉強会や日々のケアの中で情報・知識を共有し、スキルアップを図っています。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	加盟グループホーム協議会の所属ブロック間で管理者、職員が研修や親睦会を通じ、交流を深め、情報交換をしてサービスの質の向上に繋げている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談で生活状況に把握に努めたり、日々のケアの中で入居者からの要望を聴いたりして、スタッフ間で情報を共有し信頼関係の構築に努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり家族が抱えている不安、要望、意向等、時間をかけてよく話しを聴き、信頼関係の構築に努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族の思いや意向を理解するために何回も相談を受けたり、面談をする機会を設けている。事情を考慮して、他の介護サービスを案内、紹介する時もある。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で入居者に役割を持って頂き、ご本人の出来る力、分かる力を活かし、人間関係の中で支え合う関係作りに努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の中には、事業所に一任されている家族もいるが、事業所から入居者の様子やホームの様子を発信することで、入居者と関わる機会をつくり、ご家族と職員が互いに協働していく努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に関わりのあった民生委員や知人の来訪時には、一緒にお茶を飲んで寛いで頂き、ホームでの様子を話したり、行事への参加を呼び掛けたりして、関係性の維持に努めている。	以前の職場の同僚や、友人、知人等が面会に訪れ、リビングや居室でお茶を飲みながら、楽しいひと時を過ごしている。また、イベント時に顔を合わせる地域の方、同一法人他事業所利用者との、新しい関係作りに努め、継続出来るよう支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方が孤立されている時は、スタッフが声をかけ入居者同士の関わり合いの場を作り、皆で支え合い、助け合うことを支援し見守っている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の承諾を得て、退去先の施設や病院を訪れ、本人及び退去先職員との関係を保ち、相談や支援に努めている。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望や要望は、声かけや行動から得るように努めています。難しい場合は、家族からの情報や昔の経歴を参考にしています。	職員は、利用者寄り添い声かけし、その会話や独り言、表情等から、利用者の思いや意向を汲み取るよう努めている。また、アセスメントを見直したり、家族と相談しながら、利用者が今、何を望んでいるのかを少しでも把握出来るよう努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や家族との会話の中から、これまでの暮らしの把握に努め、入居後のサービスに活かしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを把握し、本人の出来る力、分かる力を日々の暮らしの中で発見するよう努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員による評価を行い、状態変化や更新時には、本人、家族、看護師、医師等と意向や希望、意見、助言等を話し合いプランを作成し共有している。	介護計画は、利用者や家族の希望を聞きながら関係者で話し合い、3ヶ月毎に作成している。また、利用者の重度化に対しては、家族と繰り返し話し合い、看護師、主治医と連携を取りながら、介護計画をその都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケア記録に記入し、スタッフ間で情報を共有している。変化がある場合は、随時カンファレンスをして、ケアの方法やケアプランの見直しに活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	些細な状態変化でも業務日誌に記録し、本人の状態や家族の状況を考慮して、対応できるように取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のショッピングセンターで買物や食事を楽しんだり、自治会行事に参加したり等、それぞれの残存能力が発揮出来るよう支援している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医で医療サービスが受けられるよう、ご家族と協力し、通院介助を行っている。週1回の訪問診療があり、重度的変化があるときは、家族同席の上、医師が直接家族に説明し状態の把握ができています。	利用者や家族の希望を優先して、かかりつけ医の受診支援をしている。また、協力医療機関による毎週の往診と、看護師との連携で、利用者がいつでも適切な医療が受けられるよう支援している。週1回、理学・作業療法士の訪問があり、歩行訓練、リハビリ等が行われ、利用者の身体機能の維持、向上に取り組んでいる。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、各入居者のケアにおける医療的な注意点を業務日誌に記入し注意を促すと共に、介護職は個々の変化を看護師に伝え、適切な対応を仰ぎ、共に利用者本位の立場で支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの生活状況がわかるよう情報提供書を提出している。また、日頃より重症化の対応について家族と相談し、家族の意向、要望、思いを医療関係者に伝えている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で重度化した場合や終末期の対応について家族から意向を聴いている。ご家族来訪時に現状を報告し、病状によっては、終末期について、ご家族、医師、看護師、事業所と何度も話し合いが出来る体制を整えている。	「重度化及び看取りの指針」を作成し、家族、医師、関係者で繰り返し話し合う機会を持ち、家族の意向を確認しながら、ホームで出来る事、出来ない事を説明し、理解してもらい、関係者全員で方針を共有し、重度化に向けた支援を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員が2名おり、年1回救命講習会を実施している。応急手当、AEDの使い方、人工呼吸、心臓マッサージ等、確実にこなせるよう訓練しています。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回、昼間夜間を想定し実施している。スタッフは、火災警報器や報知器等の消防設備の使い方を理解している。ご近所に消防団員が住んでおり、協力を得られる関係にある。非常時の備品、食料を備蓄している。	消防署の協力を得て、年2回昼夜を想定した避難訓練を実施している。居室の窓に利用者の状態に合わせた目印(赤・黄・緑)を掲げ、避難させたら剥く等、消防署、関係者で救出方法の確認を行っている。また、非常食、飲料水、非常用備品(ランタン・懐中電灯)等の準備もある。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を受講したり、スタッフ会議で話し合いを持ったりして、常に意識付けを行っている。排泄などの声かけは、大声で言うのではなく耳元で声かけを行い、利用者のプライドやプライバシーを損ねないようにしている。	居室にトイレと洗面台を完備し、利用者一人ひとりのプライバシーに配慮している。また、職員は、研修会に参加し、職員同士の話し合いの中で、利用者に対する対応について常に意識し、家族のような関係でありながら羞恥心に配慮し、プライドを傷つけない支援をしている。また、個人情報の記録は、鍵のかかるロッカーで保管されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で入居者の希望、意向、嗜好を把握し、一人ひとりの状況に合った声かけを行い、自ら決定して頂く場面、機会をつくっている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、個別性のある対応をしている。その日、その時の本人の気持ち、希望に合わせて支援するよう努めている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性、生活歴、生活習慣等に応じて、本人の意向、希望を尊重しながらさりげない支援に努めている。 お化粧品、マニキュア等、おしゃれを楽しんで頂いている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下拵えや後片付けを職員と一緒にしたり、月一、皆で外出に出かけている。行事やイベント時のおやつを入居者にリクエストして頂き一緒に作っている。	調理上手な職員が作る美味しい食事は、味、形態、カロリー、彩り等に配慮され、利用者の残存能力に合わせ、テーブルを拭いてもらう等、準備に関わってもらい、職員と共にテーブルを囲み、談笑しながらの楽しい食事風景である。また、桜餅、柏もち、おはぎ等を手作りしたり、月に1度の外食等、食べる事を楽しめるよう、職員が知恵を出し合い、工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を毎日記録し、職員間で情報を共有している。飲み込みの悪い利用者には、ドロミ剤やお茶ゼリーを活用し、水分確保に努めている。毎月、体重の増減を記録している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の口腔状態に合った口腔ケアを行い、本人が出来るところは本人に任せ、最後の確認、仕上げを介助している。液体歯磨きをうがいで使い、歯茎の炎症、歯周病予防に努めている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の自尊心、プライバシーに配慮しながら、さりげなくトイレ誘導を行っている。一人ひとりの排泄パターンを把握している。リハビリパンツ、パット類は、本人の状態に合わせ調整し、個別性のある支援を行っている。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、早めの声かけやさりげない誘導で、出来るだけトイレでの排泄を支援している。また、おむつ、パットの使用量を出来るだけ減らす取り組みや、夜間の排泄支援について、利用者一人ひとりについて個別に検討し、実践している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便記録により状況を把握し、便秘予防の為、飲食物の工夫をしたり、腹部のマッサージや無理のない適度な運動や散歩を行っている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人がゆっくりと気持ち良く入浴出来るよう工夫している。拒否がある方には、スタッフを代え声かけしたり、時間をずらしたり、別ユニットのお風呂を使ったりすることで、最終的には気持ち良く入浴されています。	入浴は、利用者の状態や気持ちを優先し、いつでも自由に入れる支援をしている。入浴嫌いな利用者には無理強いせず、タイミングをずらしたり、職員が代わって声かけしたり、別ユニットのお風呂に誘う等工夫し、入浴が楽しいものになるよう配慮している。また、グループホーム協議会で、入浴拒否をテーマにして事例発表を行う等、積極的に取り組んでいる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促し、一日の生活リズムを整えられるよう支援している。昼寝や就寝時間を限定することなく、本人の状態に応じ、日中も休んで頂いたりし、一人一人のペースで安眠して頂いている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人のお薬の変化時は、看護師の指示で全職員が理解している。誤薬防止のため二重三重でチェックし記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る事、出来そうな事を活かして、家事等を手伝って頂き、必ず感謝の言葉を伝えている。職員は、利用者にホームでのイベント事を楽しんで頂けるよう内容を工夫し取り組んでいる。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天候に合わせて、草取りや花壇の水遣り、公園への散歩、ショッピングセンターでの買物や外食など戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、日常的に散歩に出かけている。地域の行事や、季節の花見、大型ショッピングセンターへの外食、買い物等、出来るだけ戸外へ出かけられるよう積極的に支援している。また、家族と相談しながらの個別の外出支援にも取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力で少額の金銭を所持されている入居者もいる。金銭の受渡しが出来る入居者には、買物時、お金を渡し自分で支払う場面、機会をつくり、社会性の維持に繋げている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をかけたい時は、プライバシーに配慮し子機を使って頂いている。手紙の時は、状況に応じて住所のメモを渡したり、封筒に宛名を書いたりして支援している。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には季節の花を植えたり、食堂には花や皆で作った季節感のある作品を飾っている。玄関、廊下、居室等は気持ち良く過ごして頂けるよう、日々、入居者とスタッフが一緒に掃除をしている。	季節の花が植えられた玄関を入ると、室内は広々と明るく清潔で、多目的ホールを中心に、各ユニットに自由に行き来でき、利用者同士の交流も活発である。利用者、職員と一緒に製作した季節毎の作品や、行事の楽しそうな写真が飾られ、家庭的な居心地の良い共用空間である。窓から見える池の水面は太陽の光がキラキラと反射し、利用者の楽しみとなっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファを置き、気の合う仲間同士が寛ぎ、利用者の写真や作品を展示し、過去の行事を思い出しながら楽しんでいる。入居者同士の関係性を考慮して席替えを行っている。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、調度品を持ち込んで頂いたり、家族の写真を飾られたり、また、亡くなった家族の写真の前では、一緒にお茶を飲んだりされ、在宅生活に近づけるように工夫している。	各居室には、トイレ、洗面台が完備され、居室の入口には家族の方が手作りされた一輪挿しが飾られている。居室は、利用者が穏やかに過ごす大切な場所として、家族の協力を得ながら、利用者が自宅に使っていた物や大切にしている物を持ち込んでもらい、自宅のような雰囲気や居心地良く、過ごせる居室となるよう配慮している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に表札を付けたり、浴室や洗濯室、トイレ等に目印を貼ったりしている。一人ひとりの心身機能の変化や分かる力に応じて、また本人のわかる力を活かした環境整備に努めている。		